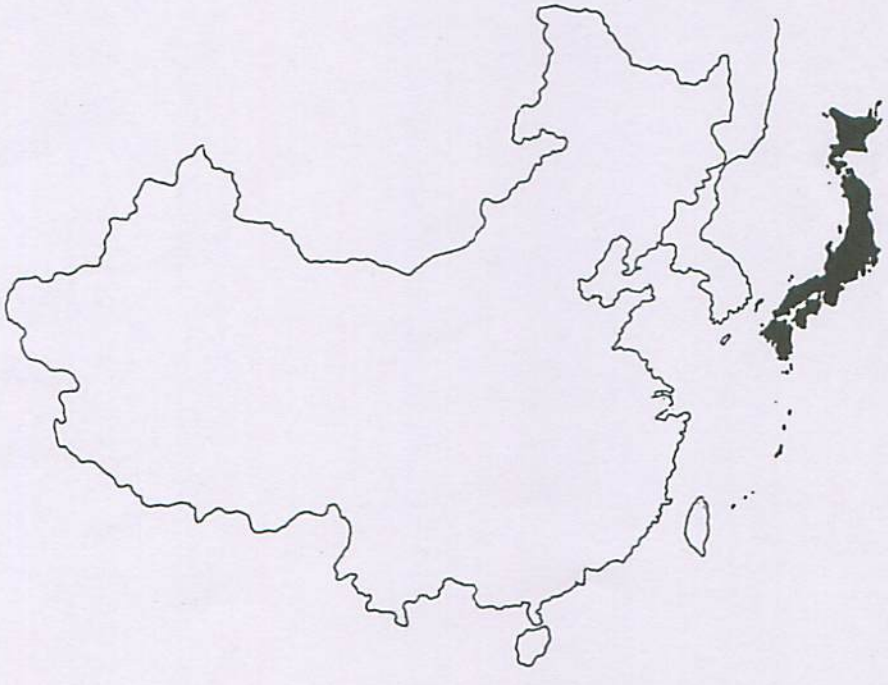
日本ビジネス中国語学会

会　　報

第 3 号



日本ビジネス中国語学会
設立趣意書

明治以来終戦時に至るまでの間、わが国の外国語教育は、先進文化を吸収するための文化語学と、近隣諸国との軍事・通商に備えるための実用語学にはっきりと分れていました。従って文化語学はアカデミックな研究であり、実用語学は技術的訓練にしかすぎないと見られてきました。そういう潮流の中で、中国語学界のエリートたちは、中国語学を文化語学としてアカデミックな研究の対象にしようと、第２次大戦末期に力説されるようになりました。

第２次大戦後は、曲がりなりにも中国語学はアカデミズムの片隅にその位置を見つけ、大学の教員もアカデミックな研究によって自分の業績を作るようになりました。しかし、一方で実用語学としての中国語学は軽視されるに到りました。外国語大学や社会科学系学部でも、商業経済や新聞雑誌に関する中国語研究は次第におろそかになり、そのため、この方面の研究に従事する人々は、共同に研究する基盤もなく業績を発表する媒体もないという有様です。

言うまでもなく、日本のおかれている国際的地位は明治・大正と大いに異り、外国文化に関する見方も先進・落後という単純な区別はなくなり、わが国と中国との関係もまた文化から経済まで広くかつ深いものになっています。中国語の言語理論的研究はもちろんより一層発展させる必要があります。同時に中国語の実用的研究はそれ以上必要であると思われます。

近畿在住の数人の研究者が時折顔を会わせて論議しているうちに、全国各地に散在しているそしてまた学界のみならず経済界で活躍しているこの方面の研究者を結集して、中国語の実用的研究 —— 例えばビジネス中国語・通訳翻訳の研究等々を組織的、体系的に推進するために、ここに「日本ビジネス中国語学会」（仮称）をつくろう、という議が持ちあがりました。

趣旨に賛同下さる方々のご参加を心から期待しています。

第３回総会開催

公開講演会・会員シンポジウムを同時開催

日本ビジネス中国語学会の第３回総会が、６月１９日（土）午後２時より、大阪市中央区の蝶理㈱５階会議室において開催され、１０名の出席と委任状４７名、合計５７名で総会が成立、熱心に審議を行いました。

総会は武吉次朗氏の開会の辞に続いて、会則に基づき伊地智善継会長が議長をつとめ、議事録署名人に武吉・待場両氏を選出、総会成立の確認の後、活動の報告、収支報告、会計幹事報告を行いそれぞれ承認されました。藤本理事長より今年度の活動案、予算案提出と説明を行い了承されました。武吉理事より第１回ビジネス中国語検定の報告を行いました。

総会の後、３時より行われた公開講演会では、岡本篤子先生が「第１回ビジネス中国語検定試験講評」と題して、試験結果の分析をもとに、専門用語の学習の必要性や日本語の敬語の誤用等を実例をあげて紹介。伊井健一郎先生は「漢語拼音（ピンイン）の正詞法」と題して、８４年の“试用稿”との違いなどについて具体的に問題点を提示せて紹介。参加者は熱心に聞き入っていました。

（講演内容は 3 ～ 12 頁参照）

講演会の終了後、懇親会を催し親睦を深めました。

日本ビジネス中国語学会第３回定期総会議事記録（要旨）

1992年 6月 6日（土）

１．14:00	開会の辞　武吉次朗氏	
	議長選出　会則にもとづき伊地智善継会長がつとめる。	
２．議長挨拶	挨拶の後、議事録署名人に武吉・待場氏の２名を選出	
３．総会成立	藤本氏より報告。４月１日現在会員８４名の内、出席者１０名、委任状４７名、合計５７名。過半数で成立を確認。	
４．報告	活動報告（藤本恒）：資料にもとづき報告。	承認
	収支報告（岩下孝彦）：別紙の通り収支情況を報告。	
	幹事報告（待場裕子）：正確に記帳されている事を認めます。	承認
５．活動案提出	（藤本恒）：第２回ビジネス中国語検定の実施、講演会・シンポジウム等を資料にもとづき提案。	承認
６．予算案提出	（藤本恒）：	承認
７．14:50	閉会の辞　武吉次朗氏	

第１回ビジネス中国語検定試験講評

京都外国語大学非常勤講師
岡本　篤子

第１回ビジネス中国語検定試験が昨年１１月２９日にＬ大阪で行われた。初回のことでもあり準備が遅れ、ＰＲ活動も不十分であったため、受験者は２８名にとどまった。当分試行錯誤を重ねながらとにかく続けることが大切で、経験を積みよりよいものにしたいものだ。ビジネス中国語学会が行う重要な活動の一つであるから。

ビジネス中検の講評を行うにあたって、受験者数２８名では、少なすぎると感じたことと、今後就職活動を前にした大学三回生の受験が相当数見込まれることを考え、京都外大の商業文２の受講者の内、初回の授業に出席した２８名（三回生　２４、四回生　４）に初級テストをやらせた。その結果も参考にして講評する。

１．受験者（１１月２９日）

	初級	中級	
学生	7	7	（全員三回生）
会社員	1	１０	
無職	2	1	
合計	１０名	１８名	

京外大（４月１３日）

	２８	0	
総計	３８名	１８名	

２．成績

１）初級（検定）：全員合格。

	単語（１０）	日訳（３０）	中訳（４０）	選択（２０）	全体（１００）
平均	8	２７．６	２６．８	１９．２	８１．６
最高	１０	３０	３６	２０	９４
最低	6	２５	２０	１６	７２

２）初級（京外大）：不合格（６０点以下）６名。

平均	６．６	２３．９	２２．５	１７．１	７０
最高	１０	２９	３３	２０	９２

最低	2	16	7	12	43

3）中級（検定）：不合格（60点以下）4名。

	単語（10）	日訳（30）	中訳（20）	穴埋（20）	訂正（20）	全体（100）
平均	8.1	26.4	15.7	13.7	9.1	73
最高	10	30	19	20	20	99
最低	4	14.5	7	4	4	48

3．批評

1）初級

単語：中国語でも、日本語でも、一般的な読物ではカバーしきれない専門用語は、そにための学習をしなければならない。（交货期ー納期、成交ー成約する）

日訳：言葉だけでなく、背景（中国事情）を知らないと理解できないことがある。

（独资企业ー100%外資企業、三资企业の一）

日本語の間違い、不正確が目についた。特に格助詞、敬語の使い方に間違いが多く見られた。

貴社の上海産の運動靴に対する興味に感謝します。

（貴社が上海産の運動靴に興味をもたれたことに感謝します。）

外国の中国に投資する～は～

（外国が中国で投資している～は～）

中訳：　一般に中訳のレベルが低い。中訳の成績がよい人は概して他の問題の得点も高い。これらのことを考え合わせると、日訳に片寄りがちな学習形態とその欠点が浮かび上がって来る。

中訳では、断片的な知識は役に立たない。語句にしろ、文型にしろ、消化しきったものしか使えない。使われる形、つまり文か句（受到欢迎，热烈欢迎）で憶えることだ。

从长江口到上海港不很远。

（上海港离长江口不太远。）

’离’と’从～到～’の使い分けも、代表的で簡潔な用例一文で憶えておれば簡単だ。

また、基本語彙や基本文型のなかで欠落していたり、曖昧だったりする部分が見られる。外国語の学習では、多様な教材に接することで自然に基礎が固まっていくのが理想だが、テストは取りこぼしを補い、整理するよいチャンスでもある。

不能休息星期天。

（星期天不能休息。）

这台电视机是新成品，比旧的很好。

（这台电视机是新产品，性能比旧型号高得多。）

虾子　虾儿　蛇　蛤　海蛇　虹　海蜇　虹鱼　虾米　海老　海蚱　海虫卜

（对虾）

招待状　招待书　招待信　招待票　招待证　招待片　请招状　介绍信

请柬书　邀请书　邀请　邀请信　邀请状　邀请卡

（请帖）

’劳驾’，’请多关照’等の慣用表現や、今回は出題されなかった常用四字成語も憶えておく必要がある。

2）中級

日訳：　出題される文が長くなり、文構造もやや複雑になるため、日本語の不備が目につく。まとまった量を訳す場合、初級の日訳の項で述べたこと以外に、文体の選択と統一、敬語レベルの選択と統一が問題になる。訳し終わった段階で日本語として検討する必要がある。

新中国が成立してから、資本主義国家への輸出貿易の発展させるために、１９５７年の春に中国の各対外貿易公司によって広州で第一回目の中国輸出商品交易会を連合してとりおこなわれました。～交易会の規模は絶える事なく拡大している。

中訳：　’越～越～’の構文を使えなかった人が数人いたが、この構文は初級に属する。着実な学習をすることと時に基本語彙や基本構文のチェックをすることが必要である。

中級以降の学習は特に読解に片寄りがちであるが、中訳は中国語の基礎を固め応用力をつけるために最も有効な方法である。従って、中国語の能力を量るには中訳をさせてみるのが一番だ。

穴埋：　通常、虚詞に関するものが多いので、今回の問題ではあまりできがよくなかった。中訳の場合はそれぞれの知識を総動員して、それなりに自分の文を作ることができるが、穴埋問題では、問題の文のレベルに見合った適語を入れなければならないための難しさがある。

’首先、最早’を入れなければならない問題では、’开拓　最　刚刚　领先　渐渐　发展　正在　当　进　从　初　逐渐　其尤　刚　最早’と各人各様の回答が見られた。中には文法的に正しいものもあるが（刚刚　刚　渐渐　逐渐）

事実には合わない。背景を知らないための間違いである。

訂正：　最も成績が悪く、正解率４５．５％であった。問題点は中訳、穴埋と共通する部分が多い。それ以外に、虚詞以外の問題（到北京回来）や一問中二個の間違い（虽然多么忙　见面他）に戸惑ったようだ。

最後に学習方法について所感を述べたい。外国語の学習法は人によっていろいろであるが、学生の答案を見ていて、テキストや工具書が豊かな時代故の不消化を感じる。私事で恐縮だが、私が中国語を学び始めた頃は、教材が少なかった。一回生で学んだテキストを中国人の先生にお願いして録音してもらい、テープが擦り切れるまで聞いて憶えた。その初級テキスト上下が私の中国語の基礎となり、作文や会話に役立った。テキストや工具書が豊富で、旅行や留学も自由にできる時代にあって、一冊の初級テキストを暗記するとゆうような「ダルイ」作業をする人はいないかもしれない。しかし、しっかりした基礎の上にこそ、ある時期に必要な大量の乱読、乱聴も生きて来るのでは。

ビジネス中国語の理解に必要なのは：

１．日本語能力（外国語の能力の基礎になる）

２．中国語能力（一般的な中国語能力プラス専門用語）

３．中国事情に通じていること。

４．ビジネス事情に通じていること。（取引の流れとその各段階で使われる専門用語）

４．今後の課題

１）準備とＰＲ：第２回検定試験の日取りが１１月２８日なので、余裕を持ってＰＲ活動を行うためにも、大学の夏休明け頃を目標にするのがよい。

２）初級、中級の範囲設定：初級は大学三回在学程度、中級は大学卒業後若干の実務経験を有する程度と説明されているが、もう少し具体的な表現にできないか。

３）音声テスト：受験者がある程度増えるまで行えないが、できるだけ早い機会に取り入れる必要がある。

４）初級、中級の併願：昨年の受験者から要望が出された。試験が年一回であるため、就職活動を控えた大学三回生の受験の機会が一回しかないため。同一時間内に初級・中級テストを行わざるを得ない現状では不可能だが、受験者が増えれば改善できる。

５）上級：今回の受験者の中に、上級があれば上級を受験したに違いないと思われる人がいた。

２）以下は、受験者が増え、経験を充分に積んでから解決すべき問題である。

汉语拼音の正詞法について

日本ビジネス中国語学会
姫路独協大学　伊井　健一郎

１９８８年、中国の国家教育委員会と国家語言文字工作委員会は、“汉语拼音正词法基本规则”の公布に関する共同通知を出した。それは８４年の“试用稿”に対する検討を経て出来上がったものである。だから少なくともここ４、５年来の拼音については、公的基礎をもったものと理解したい。ところが若干の中国語テキスト、雑誌及び中国社会で通用している商品包装の印刷物などには、その混乱ぶりが目につく。

同時に、昨年来作業を進めていた中級上級用講読テキスト『さらば、瀬戸内海！』（白帝社刊、共編）の「ピンイン版」作成の際には、実際に書写する段階で多くの疑問と戸惑いを覚えた。８０年の約一年がかりの“新华字典・拼音版”作製時とは異なる問題点の提起でした。

この報告では、いくらかの疑問点を提起して、文末に“基本规则”の一部（拼音表記を省略、全文ではない）を資料として提供するにとどめたい。

１、拼音の間違いや不適切さ（印刷ミス？）

a, WENGHWA　YWE　KAN, RE　DIAN　TO　SHI,
　TAIGANGAOSHENG,
　FUJIAN　ANXI　ZHENPIN　TIEGUANGYIN
　これは、,《群众文化》から改名された《文化月刊》の誌名とその中の欄の二つ及び商品包装の印刷である。‘热点透视’‘台港澳声’は、‘热点’と‘透视’をそれぞれ続け書きし、‘台港澳’は間に二つのハイフンが必要。‘月刊’も続け書き。なお、下線――印は間違いを示す。

b, RENSHENFENGWANGJIANG,
　HONGQIZHIYAOCHANG
人参蜂王浆と红旗制药厂には、それぞれ分かち書きが求められる。同じことは、
ZHENPINTIEGUANYIN　珍品铁观音にも当てはまる。

c, JI　NAI　YUAN（挤奶员）、SHI　ZI　WU（狮子舞）等は、今年８月来日公演の「内蒙古少年友好芸術団」の演目である。それぞれ一つの単語だから離さずに書く方が適切か、と思われる。

d, KWEICHOW　MOUTAI　贵州茅台酒の現地読みなのか？　さもなくば、Guizhou　Maotai　とすべきである。
GUANGMING　DAILY　《光明日报》が最近，Ribao　からこのような英語に変わっている。

e，凯丽（Kelly），乔伊（Joy），蒙勃朗（Montblanc），赫尔梅斯（Hermes），维顿（Vuitton）

これらは、《国际商报》INTERNATIONAL BUSINESS（1993．3．7）紙の‘名牌逸闻’に掲載された固有名詞である。

外国语专名本着‘名从主人’的原则，按照各文字的罗马字母转写法转写。（“社会单位名称汉语拼音拼写规则《征求意见稿》”及び“基本規則”の一、5参照）

2、分写，连写（分かち書き、続け書き）の不統一

ここでは二、三の具体例を“试用稿”との違いなどで指摘したい。

a，“老，小，大，阿”等は大文字で書きだす。（“規則”一、3　以下同じ）

“试用稿”は、小文字。　Xiǎo　Liú，Lǎo　Qián

b，“万，亿”とその前の一桁の数は連写、前の二桁以上の数は分写。（五、2）

“试用稿”は、後の“万，亿”を分写。

jiǔyì　líng　qīwàn　èrqiān　sānbǎi　wǔshiliù　900，072，356

liùshisān　yì　qīqiān　èrbǎi　liùshibā　wàn　sìqiān　líng　jiǔshiwǔ.

6，372，684，095

c，介词“于”は、分写。（六、2）“试用稿”は、連写。

shēng　yú　1940nián。　guānyú　zhège　wèntí

d，副詞と後の語は、分写。（六、1）“试用稿”は、連写。

yīng　bù　yīnggāi

e，“的，地，得”は“de”と書き、分写。（六、4）“试用稿”は、連写。

wǒ　de　shū，tǎnbái　de　gàosu，dǎsǎo　de　gānjìng。

3、拼音と英語読みなどの扱い

a，语言文字应用研究所汉语拼音研究室による《汉语拼音分类拼写举例（一）》の例の一つ：中国奥林匹克委员会は、Zhōngguó　Olympic　Wěiyuánhuìである。

（《语言文字应用》1993年1期）

これは既出の“Guangming　Daily”と同様に理解できよう。

b，QE－16型自行车　----‘克优’依16型　丘鹅16型

C－260型车床　----西260型　策260型

WXD－02型卫星地面站----达不溜爱克斯滴02型　蛙希爹02型

これらの例は、86年12月23日の中央电视台“新闻联播”の一部であり、左側のように放送された。本来“汉语拼音方案”（1958．2．11）の字母呼称では、右側のように発音されるところである。（《语文建设》1993年2期）

ところが、改革開放政策により多くの成果が現れ、すでに中国の情況が変化しており、一般民衆が口にしている音をわざわざ訂正していくのも難しいことである。英語の場合など、その字母呼称をもって拼音字母の呼称とするのは、現実的だと言える。

4、多くの問題

分写や連写についての方位詞や補語の扱い。成語の書き方。小数民族語や外国語の固有名詞の書き方。声調は元のままでよいのか。等等未解決の点が多い。

ＮＨＫのテレビ「中国語会話」、「ラジオ中国語講座」及び北京放送の「みんなの中国語会話」それに北京語言学院・北京大学などで出されている“课本”をみても、その拼音は必ずしも統一されているとはいえない。

「みだりにつずって書くという規範的でない現象はなくさなければならない。いかなる部門や単位であれ、汉语拼音を使用すべき場合にその他のピンイン方案を使ったり推し進めたりすることを決定する権限はない」（《语文建设》９２年１２期）のである。《人民日报》（９２。１２。１９）も「言語文字の応用における混乱現象を正そう」の中で、引き続き“汉语拼音方案”を推し進め、その使用範囲の拡大を図ることを呼びかけている。

まさに呼びかけに呼応するかのように“文字质量万里行”の実践をしている人物が現れた。“李延良万里找错字”の記事（《光明日报》１９９３。６。４）にみられるが、極めて重要な言語文字政策の面では、問題は少なくない。彼は、専ら社会の別字や誤字をさがして、４月中旬から５月中旬にかけて常州市を出発北京に向けて自転車行脚をしている。道路の標識、商店の看板、広告や新聞・雑誌等で誤字・別字をさがし出しては、文字の規範化の意義を説明して歩いている。それは９１年、９２年にも実施された。「まさに現代の‘愚公’じゃ」と言う人もいるという。

（一九九三。七。三十）

资料・汉语拼音正词法基本规则(1988.7.1)
(分写の印｜施しました。)

日本ビジネス中国语学会
姬路独协大学　伊井健一郎

○、总原则

1. 拼写普通话基本上以词为书写单位。
   好　　朋友　　图书馆
2. 表示一个整体概念的双音节和三音节结构，连写。
   开会　　走来　　胆小　　爱鸟周　　吃得消　　对不起
3. 四音节以上表示一个整体概念的名称，按词（或语节）分开写，不能按词（或语节）划分的，全部连写。
   中国｜社会｜科学院　　研究生院　　鱼腥草素
4. 单音节词重叠，连写；双音节词，分写。
   看看　　红红｜的　　研究｜研究
   重叠并列即AABB式结构，当中加短横。
   来来往往　　千千万万　　说说笑笑
5. 为了便于阅读和理解，在某些场合可以用短横。
   公关——公共关系　　十七八岁　　中小学　　陆海空军

一、名词

1. 名词与单音节前加成分（副、总、非、反、超、老、阿、可、无等）和单音节后加成分（子、儿、头、性、者、员、家、手、化、们等），连写。
   副部长　　非业务｜人员　　孩子们
2. 名词和后面的方位词，分写。
   树｜下　　永定｜河｜上　　黄｜河｜以南
   但是，已经成词的，连写。例如：“海外”不等于“海的外面”。
   空中　　地下
3. 汉语人名按姓和名分写，姓和名的开头字母大写。笔名、别名等，按姓名写法处理。
   诸葛｜孔明　　鲁｜迅
   姓名和职务、称呼等分开写；职务、称呼等开头小写。田｜主任　　李｜先生
   “老”“小”“大”“阿”等称呼开头大写。老｜钱　　阿｜三
   已经专名化的称呼，连写，开头大写。孔子　　西施
4. 汉语地名按照中国地名委员会文件(84)中地字第17号“中国地名汉语拼音字母拼写规则（汉语地名部分）”的规定拼写。
   汉语地名中的专名和通名分写，每一分写部分的第一个字母大写。
   鸭绿｜江　　台湾｜海峡
   专名和通名附加成分，单音节的与其相关部分连写。
   西辽｜河　　朝阳门内｜南小街
   自然村镇名称和其他不需区分专名和通名的地名，各音节连写。
   王村　　三潭印月
5. 非汉语人名、地名本着“名从主人”的原则，按照罗马字母（拉丁字母）原文书写；非罗马字母文字的人名、地名、按照该文字的罗马字母转写法拼写。为了便于阅读，可以在原文后面注上汉字或汉字的拼音，在一定的场合也可以先用或仅用汉字的拼音。
   牛顿　　芥川｜龙之助　　呼和浩特　　东京
   汉语化的译音名词，按汉字译音拼写。南美　　东南亚

二、动词

1. 动词和“着”“了”“过”连写。

看着　　看了　　进行过

句末的“了”，分写。火车｜到｜了。

2. 动词和宾语，分写。

吃｜鱼　　开｜玩笑

动宾式合成词中间插入其他成分的，分写。

鞠了｜一｜个｜躬　　理过｜三｜次｜发

3. 动词（或形容词）和补语，两者都是单音节的，连写；其余的情况，分写。

搞坏　　打死　　化为（蒸气）　　当做（笑话）

走｜进来　　整理｜好

建设｜成（公园）　　改写｜为（剧本）

三、形容词

1. 单音节形容词和重叠的前加成分或后加成分，连写。

蒙蒙亮　　亮堂堂

2. 形容词和后面的“些”“一些”“点儿”“一点儿”，分写。

大｜些　　大｜一些　　快｜点儿　　快｜一点儿

四、代词

1. 表示复数的“们”和前面的代词，连写。

我们　　他们

2. 指示代词“这”“那”、疑问代词“哪”和名词或量词，分写。

那｜次｜会议　　这｜只｜船

“这”“那”“哪”和“些”“么”“样”“般”“里”“边”“会儿”“个”，连写。

这些　　哪里　　这个　　这么样

3. “各”“每”“某”“本”“该”“我”“你”等和后面的名词量词，分写。

各｜个　　各｜人　　每｜年　　某｜工厂

本｜市　　我｜校　　你｜单位

五、数词和量词

1. 十一到九十九之间的整数，连写。

十五　　九十九

2. “百”“千”“万”“亿”与前面的个位数，连写；“万”“亿”与前面的十位以上的数，分写。

九亿｜零｜七万｜二千｜三百｜五十六

3. 表示序数的“第”与后面的数词中间，加短横。

第一　　第三百｜五十六

4. 数词和量词，分写。

两｜间｜半｜屋子　　五十三｜人次

表示约数的“多”“来”“几”和数词、量词分写。

一百｜多｜个　　十｜来｜万｜人　　几｜天｜工夫

“十几”“几十”连写。

十几｜个｜人　　几十｜根｜钢管

六、虚词

虚词与其它语词分写。

1. 副词

很｜好　　最｜大　　十分｜感动

2. 介词

为｜人民｜服务　　生｜于｜1940｜年　　关于｜这个｜问题

3. 连词

光荣｜而｜艰巨　　你｜来｜还是｜不｜来？

4. 结构助词“的”“地”“得”“之”

这｜是｜我｜的｜书。　　商店｜里｜摆满了｜吃｜的、｜穿｜的、｜用｜的。

他｜在｜大街｜上｜慢慢｜地｜走。　他｜一｜步｜一｜个｜脚印儿｜地｜工作着。

写｜得｜不｜好

附：“的”“地”“得”在技术处理上，根据需要可分别写作“d”“di”“de”。

5. 语气助词

怎么｜还｜不｜来｜啊？　　他｜是｜不｜会｜来｜的。

6. 叹词

啊！真｜美！　　嗯，你｜说｜什么？

7. 拟声词

哗哗　　叽叽喳喳　　嘟，汽笛｜响｜了。

七、成语

1. 四言成语可以分为两个双音节来念的，中间加短横。

爱憎分明　　平分秋色　　颠三倒四

2. 不能按两段来念的四言成语、熟语等，全部连写。

不亦乐乎　　一衣带水　　吊儿郎当

八、大写

1. 句子开头的字母和诗歌每行开头的字母大写。（举例略）

2. 专有名词的第一个字母大写。

长城　　清明节

有几个词组成的专有名词，每一个词的第一个字母大写。

国际｜书店　　光明｜日报

3. 专有名词和普通名词连写在一起的，第一个字母要大写。

广东话

已经转化为普通名词的，第一个字母小写。

广柑　　中山服

九、移行

移行要按音节分开，在没有写完的地方加上短横。

……guāng-míng（光明）

十、标调

声调一律原调，不标变调。

一｜天　　七上｜八下　　不｜去

但是在语音教学时可以根据需要按变调标写。

附：除了《汉语拼音方案》规定的符号标调法以外，在技术处理上，也可根据需要采用数字或字母作为临时变通标调法。

（1993.6.19於大阪）

最近流行し良く使われる「ビジネス中国語」

戸毛　敏美

入关	ガットに近く復帰する。「关贸协定」を更に「关」と略
机遇	チャンス
接轨	中国経済の軌道を修正し、世界経済の軌道とドッキングさせる
翻牌公司	「政企分离」「精简机构」「转变政府职能」にもとづき次々に作られる公司、俗にいう「二枚看板」 表は××局という役所の看板で、裏は××公司といって政府機関が商売をすること
下海	日本流に言えば「天下り」
“炒”	「いためる」をもじり「××ころがし」の意味に用いる
炒房产	土地ころがし、炒人：配転
炒外汇	外貨の売買（ヤミ）を行いもうける
炒股	株の売買　但し「炒冷饭」は「二番煎じ」のこと
三产二业	第三次産業、第二職業（アルバイト）
国际规范	国際的なルール
促销、竞销	昔の売手市場から買手市場になり生れたり、流行するようになった、「减价促销」「高价收购，低价竞销」 促销＝販促　　竞销＝販売競争
廉政建设	腐敗一掃
权钱交易	権限を金銭にかえる「汚職」
以权谋私	権限を金銭にかえる「汚職」私腹をこやす
上班象条虫，下班赛活龙	アルバイトに必死になっている姿
博士买驴，书券肮千，未见驴字	知識に対する評価が低い事を現す
小政府、大社会	大企業は一つの行政、社会の役目をもっている事を表現
小政府、大服务	地方政府の分権で、サービス名目に料金徴収を皮肉っている
望生成龙	「望子成龙」は昔から言われ、今は教師が生徒の点数に必死になっている事を表現
攀书山，下题海	小中学生は本の山の埋もれ、宿題に泣かされている
太子集团	高級幹部の子弟により作られた企業集団
跳槽　ホッピング	元の勤務先から飛び出し、別の企業に移る現象多発
随行就是	昔は「平价」「议价」今は市況相場に合わせた値決め
同行是冤家	これまで同系列の中央と地方の公司同士は「兄弟」。今は「仇」同士、昔の諺が復帰。
「摸糊分配」「摸糊工资」「摸糊奖金」	個々人の賃金・収入非公開のこと
换脑子、壮胆子、探路子	鄧小平の言葉
拉郎配：「翻牌公司、拉郎配」	むりやり自己の権限を利用してくっつけて会社を作る事
计划内自费学生	学費を自己負担すれば、卒業後自由になれるので人気がある
优化组合	優秀な人材・企業のみの結合再編
添丁进口	従業員の補充
「奥申」	オリンピックの開催を申請「申办奥运会」の略
会而不议，议而不决，决而不行。	会議で十分討議せず、議論はするが解決せず、決議されても実行しない。

日本ビジネス中国語学会

第三回　公開講演会・シンポジウム

1992.6.4

《大学におけるビジネス中国語教育》—その在り方について—　　橋　本　南都子

報告要旨

1．授業課目：東京外国語大学　演習　“ビジネス中国語書簡文の読み方・書き方

受 講 者：東京外大中国語科三・四年生

受講者数：'88（22名）、'89（34名）、'90（31名）、'91（38名）

使用教材：英漢対象の「対外貿易函電手冊」から適当な例文を選んだもの。

到達目標：日本商工会議所主催の「商業英語検定試験」のレベルＡＢＣＤを基準に考えると：

⑴中国語貿易書簡文の読解はＢ域はＡ

⑵　〃　の作文はＣ域はＢ

授業方法：最初は一般的であるがビジネスでよく使う手紙文（祝電、見舞い、お悔やみ、移転通知 etc）の読み書き、その後は貿易の手順に沿って進めた。関連例文の日訳と同時に中に出て来る専門用語、取引の仕組み、背景などを説明し、内容をよく理解させる。次にこの例文に似た和文の書簡文を中国語に訳させる。１－２名の学生に黒板に書いてもらい、これをたたき台にし添削する。

問 題 点：人数が多いので一人一人添削する時間がないこと、時間数も足りないので通常取引のごく基本部分しか指導できないかったこと。

2．大学におけるビジネス中国語教育の在り方についての私見

⑴　教育の方法

基本的な貿易実務の内容を説明し、理解してもらった上で中文書簡文の読み書きを教えることが不可欠。単に専門用語を機械的に覚えさせても身につかない。

⑵　範　囲

時間の制約があるので教える範囲を絞りこんでおく必要がある。

たとえば、通常取引の中でも英文電報でのやりとりが比較的多い部分（契約後の船積み、決済など）、価格交渉など書簡によるよりも面談によるケース多い分野などはあまり時間を割かずに、むしろ商品のＰＲや照会、クレーム、契約書、協議書文の読解や作文はぜひ教えておくべきだと思う。

(3) 習得目標他

◆習得レベルを明確に規定するのは困難だが、たとえば商業英語検定試験のＢクラスにでた次のような書簡文；

「ラジカセについての貴信拝受しました。ここにカタログとスペックを同封します。ＦＯＢ横浜の参考価格はＸＸＸで、他社と比較して10%安い筈です。メーカーには目下引き合いが殺到しているので至急数量と希望納期をお知らせ下さい。出来る限り貴社の要望にお応えしたいと思います。」

が比較的正確に書けることが望ましい。

◆文章は簡潔、明快であることが最も重要なので文体にこだわる必要はないが、大学で学ぶからにはただ“通じればよい”ではなく、文章語として一定の格調を備えた文が書けるように指導するのが望ましいのではないだろうか。

日本人は日本語にひきずられ、とかく冗長な文章になりがちなので中文独特の引き締まった良い文例になるべく多く接してそれをまねながら作文する。

◆中国の書簡文、契約文書などをこなれた日本文に訳せるように訓練することも極めて大切。ビジネスの場では中文日訳の機会が非常に多い。内容をよく理解して訳すには当然実務経験が必要なので学生に多くを要求するのはむりだが、日本語（国語力）の重要性をよく認識させること。

以上のような目標にある程度到達できれば、企業に入ってすぐ書簡文の翻訳をさせられることになっても何かと対応できるはずである。

最後に、一口にビジネスレターの文体といっても書く個人によってさまざまであるという簡単な例をご紹介したい。

日文	サンプルを用意してありますので、手紙でご請求いただければすぐにお送りします。
テキスト文体	备有样品，函索即寄。
中国人個人文体(1)	我方已准备好样品，如接到贵方正式要求样品之函后，将马上奉寄给您。
(2)	样品已准备好，如能得到贵方以信函形式的请求的话，我方将立即发运。
(3)	备有样品，来函即发。
(4)	样品已经备好，如用信函索取，会马上寄给贵方。

中村正氏寄贈の図書について

武吉次朗

私の勤務する摂南大学の図書館は先般、中村正氏から経済貿易に関する日中・中日・英漢などの辞典・辞典計約 250冊の寄贈を受けた。

中村氏は戦前、満鉄調査部に勤務、戦後は中国政府の留用をへて55年に帰国後、日中貿易専業商社で、文書や説明資料の翻訳を担当された。さまざまな専門用語と格闘する中で必要に迫られ、香港出版の各種「英漢」「漢英」辞典を買い求め、英語を仲介として日本語と中国語をドッキングさせた。中国大陸でも改革・開放路線になってから、「日中」「日英漢」の辞典が続々刊行させるようになったので、これらもそのつど購入された。こうして、日・中・英3か国語による専門用語の収集と解釈に関しては、中村氏は日本におけるパイオニアとなり、誰もが認めるオーソリティーになられた。

日本国際貿易促進協会が創立20周年記念事業として、「中国商品辞典」を編纂することになった時、中村氏は請われてその事務局長に就任、5年の歳月をかけて完成された。それを機会に東方書店出版部に移られてからは、「日英中貿易用語辞典」（北京商務印書館と共同出版）、「中国政経用語辞典」（愛知大学発行）など10余冊の編集を相つぎ手がけられたが、これらは今なお関係者に重宝されている。

ライフワークとして取り組まされてきた「日英中経済貿易用語辞典」が、いよいよ近く上梓の運びとなったところで、中村氏は蔵書の一括寄贈を結団され、私をつうじてお話があり、摂南大学図書館に納まったしだいである。

この中には経済一般だけでなく金融・経営・会計・知的所有権などの専門用語辞典も多く、中国経済とビジネス中国語の研究者の方々に役立つものと思う。目録は図書館に常備されており、私も持っているので、ご興味のおありの方はご連絡ください。

住所：〒 572　大阪府寝屋川市池田中町17-8
電話：0720-26-5101（代表）　ＦＡＸ：0720-38-3833（図書館）

書評

『瑞雪』

中田慶雄著

貴重な歴史的証言

現代情勢に自覚促す

四十有余年一貫していまなお日中協力と貿易の第一線で活躍している著者が、「少年期」から体験した凄絶なそして貴重な歴史的真実の証言である。

私は頁をめくりながら、涙と怒りと悲しみの錯綜した思いに幾度となく嗚咽（おえつ）を禁じ得なかった。

ファッショ軍国主義が、中国民衆を迫害しただけではなく、「我が同胞」をも死に至らす様は凄惨を超え、「野獣」と化した「鬼」と言うしか言いようがない。しかし「複雑で激しく揺れ」動く心に、「日本人であっても」中国人と同じに働く少年だ。「みんな汗を流して」兄弟同様に働いているのだと「優しく弟をさとす」中国人女性の「美しくも知性」溢れる言葉に強く励まされ明るい心で強く生きぬく著者である。

強制と圧迫、ゆがめられた教育が「異民族」への侵略・殺りくを欲しいままにし、あげくには「同胞を残虐に見捨てる」地獄の様が赤裸に迫る。

「国際貢献」という言葉こそ当時ないが「国の為」とか「東洋平和の為」とか強調された時代と現代とを重ね合わせたとき、「戦後は終わった」と安易に聞き流すことへの警鐘と言えなくもない。

「民族の理解」と「平和的共存」の重要性が叫ばれる昨今の情勢のなかで、崇高な自覚を促す。

また経済・貿易交流を推進するためにも、「理知的で信頼しあえる双方の感情を底流」として訴えるこの書は、歴史的実証の書であり、貴重であるが故に、子々孫々に残したい。

（藤吉一樹・三鶏通商社長）

（青年出版社　二、〇〇〇円）

新刊紹介

『盲流』

葛象賢・屈維英著

武吉次朗訳

出稼ぎを密着ルポ

「必然の流れ」と分析

一九八九年の春節時、中国各地の都市は農村からの出稼ぎのうねりに見舞われた。その圧倒的な規模と、無分別ともいえる流動状況から、それは「盲流」と呼ばれた。それ以後も出稼ぎ農民の波は毎年都市に押し寄せている。これは中国の新しい変動であり、見逃すことのできない大きな社会問題になっている。

本書は最初の八九年の一大ブームに際し、二人の中国人記者が全国各地に飛び、出稼ぎ者たちの中に入って密着取材、その生の声を引き出した詳細なルポルタージュである。取材は三カ月にわたり、接触した相手は数百人に及んだ。「取材を終えて戻った時には、自分まで出稼ぎ者になったような感じだった」という。四十代の働き盛りの記者の意気込みが感じられる。

本書が優れているのは、現象の赤裸々な記録だけにとどまらず、著者の鋭い問題意識が内容を深めている点である。著者は「現在の都市は3Kの仕事を出稼ぎ農民に頼っており、彼らを追い出せば機能麻痺してしまう」と分析するとともに、なぜ「盲流」が生まれたかについても歴史にさかのぼって考察した上で、農民の都市への大量移動は今後二十一世紀に向けて継続する「必然的な流れ」であると結論付け、そこに中国の未来を見いだそうとしている。

いま中国では「農民の負担を軽減する」など、農村政策が改めて見直されつつある。中国社会の現実と将来の方向を考える上で貴重な資料である。訳語もこなれており読みやすい。（東方書店　一、九〇〇円）

お勧めパソコン・ワープロ・ソフト

「ＫＯＡ－Ｔｅｃｈｎｏｍａｔｅ２中国語」

各位既にご承知の通り、コンピュータの導入に伴う、ＯＡ化が日本のビジネス社会で叫ばれ出してから既に十数年の歳月が経過しております。当初、電算機は大型のものがオフィスに導入されましたが、だんだんと小型化・分散処理化が浸透し、パソコンに至っては、今や名実ともに電卓並みに普及するようになりました。このＯＡ化に伴いワープロ専用機が先ず、英文・和文のタイプライターにとって代わりましたが、それもここ数年来の進化を経て、各種事務処理が可能なパソコン化しつつあります。企業内では現在手書き文書を見ることは希になり、特に対外発信の場合は、企業イメージ向上の為、殆ど完全にワープロ化・活字化しています。

中国ビジネスにおいても、日本側貿易業務用文書のほとんどが、ワープロ化しようとしております。掲題の「ＫＯＡ－Ｔｅｃｈｎｏｍａｔｅ２中国語」は、以前から、㈱ブロビットが販売していた「文華１３０００」の後継・改善ソフトで、上記日中ビジネスの要請を充分満足させることの出来るパソコン・ワープロソフトであり、各企業にも逐次導入されつつあります。また、このワープロ・ソフトは、本来日・英等１６カ国語の多言語ワープロ＆データベースソフトに中国語機能を付け加えたものであるだけに、使い慣れれば多彩な活用が可能であり、日中両文混在の文書作りはもとより、データ・ベース機能を利用する各種言語の文書検索用途にも活用できます。近々バージョンアップも予定されており、中国語ワープロの購入をお考えになっている会員には、中国ビジネスの効率向上、研究及び教学の有力ツールとして、是非一度他の中国語ソフトとともに検討されることを勧めます。詳細は直接下記にお問い合わせ下さい。

㈱高電社　ソフト事業部　池北幸弘　電話：０６－６２８－８８８０

日本ビジネス中国語学会会則

第1条（名　称）
本会は日本ビジネス中国語学会と称する。

第2条（事務所）
本会は事務所を大阪市内に置く。

第3条（目　的）
本会はビジネス中国語に関する研究及び関係諸団体との交流を通じて、我が国における中国語学習者の語学能力の向上を図り、もって日本と中国の友好交流の発展に寄与することを目的とする。

第4条（事　業）
本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
1. ビジネス中国語、翻訳・通訳に関する研究。　2. 日中間の相互理解を深める為の教育・研修事業。
3. セミナー、講演会の開催。　4. 機関紙の発行。
5. ビジネス中国語検定。　6. その他前各号に関連する事業。

第5条（会　員）
本会の会員は次の通りとする。
個人会員　本会の目的に賛同して入会した個人。
法人会員　本会の目的に賛同して入会した法人。

第6条（入　会）
本会の会員になろうとする者は、別に定める入会申込書を提出し、承認を得なければならない。

第7条（退　会）
①本会を退会しようとする時は、理由を付した退会届けを提出しなければならない。
②会員は次の各号の一に該当するときは、退会したものとみなす。
1. 会費を2年以上滞納したとき。　2. 死亡したとき。　3. 会員たる法人が解散したとき。

第8条（除　名）
会員が本会の名誉を傷つけ、又はこの会則に違反したときは、総会の決議により、除名することができる。

第9条（役　員）
①本会に次の役員を置く。
会　長　1名　理事長　1名　理　事　10名以上15名以内　会計監事　2名
②理事及び会計監事は、会員の中から総会において選任する。
③会長及び理事長は、理事の互選とする。
④法人会員の代表は役員の被選任資格を有する。

第10条（役員の職務）
①会長は、本会を代表し、会務を統括する。
②理事長は、会長を補佐し、会務を処理する。会長に事故あるときは、その職務を代行する。
③理事は、理事会を組織し、会務を執行する。
④会計監事は、経理を監査する。

第11条（役員の任期）
①役員の任期は、2年とする。但し再任を妨げない。
②補欠により就任した役員の任期は、前任者の残存期間とする。

第12条（役員の報酬）
①役員は、原則として、無給とする。但し、常任の役員は、有給とすることができる。
②常勤の役員の報酬は、理事会の決議により定める。

第13条（顧　問）
①本会に顧問、相談役若干名を置くことができる。
②顧問、相談役等は理事会の議決を得てこれを委嘱する。

第14条（総　会）
①総会は、定時総会及び臨時総会とする。
②総会は会員をもって構成し、この会則に規定するもののほか、次の事項を決議する。
1. 事業計画及び収支予算。　2. 事業報告及び収支決算。　3. その他本会の運営に関する重要事項。

第15条（総会の召集）
①総会は会長が召集する。
②総会を召集するには、会議の議題並びに日時・場所を開催日の10日以前に通知しなければならない。

第16条（総会の開催）
①定時総会は、毎年1回会計年度終了後3ケ月以内に開催する。
②臨時総会は、理事会が必要と認めたとき、又は会員の5分の1以上の請求があったときに開催する。
③総会の議長は、会長がこれにあたる。

第17条（総会の議事）
①会員はそれぞれ一個の議決権を有する。
②会員は他の会員に代理出席を委任することができる。
③総会の決議は、出席会員の過半数をもって行う。

第18条（理事会）
理事会は、理事をもって構成し、この会則に定められるもののほか、次の事項を処理する。
1. 総会における決議事項の執行。　2. 総会に付議すべき事項。　3. 資産の管理。

第19条（理事会の召集）
①理事会は年1回以上開催し、会長が召集する。
②議長は会長がこれに当たる。

第20条（理事会の決議）
①理事会の決議は出席理事の過半数をもって行う。
②理事は他の理事に代理出席を委任することができる。

第21条（資　金）
本会は下記の資金により運営する。
1. 会費並びに寄付金。　2. 事業収入及びその他の収入。

第22条（会計年度）
本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第23条（事務局）
①本会の事務を処理するために、事務局を置く。
②事務局は、理事長が統括する。
③事務局に常勤する職員は有給とすることができる。

第24条（会則の変更）
会則の変更は会員の3分の2以上の承認を要するものとする。

付則　1．本会は1990年12月8日から発足する。
　　2．本会の最初の役員は設立発起人がこれにあたる。

役　員　名　簿

（任期1995年の総会まで）

役　職	氏　名	所属先
会　長	伊地智　善　継	元大阪外国語大学学長
理事長	藤　本　　恒	蝶理株式会社
会計監事	待　場　裕　子	流通科学大学
理　事	安　念　一　郎	亜細亜大学
理　事	伊　井　健一郎	姫路獨協大学
理　事	今　里　　禎	天理大学
理　事	大河内　康　憲	大阪外国語大学
理　事	岡　本　篤　子	京都外国語大学
理　事	釜　屋　　修	駒沢大学
理　事	輿　水　　優	東京外国語大学
理　事	武　吉　次　朗	摂南大学
理　事	塚　本　慶　一	神田外語大学
理　事	戸　毛　敏　美	日中経済貿易センター
理　事	神　崎　多　実　子	サイマルアカデミー
理　事	橋　本　南都子	東海大学
事務局長	岩　下　孝　彦	大阪中国語学院

日本ビジネス中国語学会

入会のご案内

趣旨に賛同される方はどなたでも入会出来ます。
入会ご希望の方は申込み用紙に会費を添えて、事務局までお申し込み下さい。
（設立趣旨・１頁、会則・24頁をご参照下さい）

入会費　１，０００円（個人）　　会　費　２，０００円（個人）
　　１０，０００円（法人）　　２０，０００円（法人）

会費納付先　郵便為替　大阪５－４８５７　日本ビジネス中国語学会

連絡先　〒530 大阪市北区天神橋２－北２－26　マルサンビル４Ｆ
日中語学センター気付け 日本ビジネス中国語学会
電話０６－３５３－０６７１　FAX ０６－３５３－０６６４

キ リ ト リ セ ン

入会申込書

日本ビジネス中国語学会
会長　伊地智　善継　殿

貴会に入会致します　１９９　年　月　日

ふりがな 氏　名		女 男	生年 月日	年　月　日
ふりがな 住　所	〒			
電　話	――	―――		
所　属				

会報　第３号　　1993.10.1 発行

日本ビジネス中国語学会

〒530 大阪市北区天神橋2丁目北2番26号 マルサンビル４Ｆ

日中語学センター気付

TEL 06-353-0671 FAX 06-353-0664